

平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	日本福祉大学	整理番号	a032
1. 申請分野(系)	人社系		
2. 教育プログラムの名称	国際型通信教育による実践的研究者の養成 (社会開発研究拠点をネットワークで結ぶグローバル指導システムの構築)		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 社会学、地域研究		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (社会開発、国際社会福祉、地域間比較研究、経済発展、国際協力論)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 国際社会開発研究科国際社会開発専攻 [博士前期課程・博士後期課程](通信教育)	研究科長(取組代表者)の氏名 穂坂 光彦	
	(その他関連する研究科・専攻名)		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>本学は、わが国で最初に4年制社会福祉学部を開設した大学として、半世紀余にわたり福祉分野の人材養成に貢献し、さらに「人間福祉複合系」の大学づくりを目指し、福祉の総合的・多角的、多面的な研究教育を進めてきた。平成15年には21世紀COEプログラム「福祉社会開発の政策科学形成へのアジア拠点」が採択され、大学院社会福祉学研究科を拠点とし、国際社会開発研究科を協力研究科として、「福祉」と「開発」、およびその融合分野に焦点を当てた研究と人材養成の事業が、学長の下に推進されている。COE研究を支える基礎分野としての「開発」にかかわる研究教育の推進は、国際社会開発研究科の強化を通じて進められる。この領域における研究者養成は、現場実践と深く結びついて進められることが必要であり、国際社会開発研究科において実践的な研究者養成を強力に推進しようとする本事業は、本学の中心課題の一つとして全学的な支援、協力のもとで遂行されるものである。大学院全体の改革については、学園長期計画の一環として検討が進められており、それに対応して、教員人事制度改革や本学独自の海外研修院生奨学金、学費減免制度などの学生支援措置が検討され、逐次実施されている。</p>			

機 関 名	日本福祉大学	整理番号	a032
5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)			
<p>平成14年度設置の国際社会開発研究科修士課程(通信教育)は、インターネットを活用した通信教育と国内および海外拠点大学5個所でのフィールド学習(スクーリング)を柱に、ユニークなプロフェッショナル再教育の場を提供してきた。海外在住の現職社会人・開発専門家を多く含め、すでに計45名が修士課程を修了した。平成16年度には、高度専門家の養成のみでなく、研究教育人材の育成にも取り組むために博士後期課程を開設し、さらにCOEへの参加を通じて、これまでに蓄積したノウハウをさらに発展させる条件が整った。研究推進・論文作成に関わる直接対面指導、海外拠点でのフィールド調査支援などを積極的に展開し、通学制の情報・経営開発研究科国際開発コースでは、海外現場でのインターン型調査指導、英語による留学生の論文指導等の経験を数多く重ねてきた。これらが研究者養成向け新プログラムの方法的基礎となる。</p>			
5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)			
<p>国際社会開発という分野の実践的特性に鑑み、<u>大学院教育の実質化のための取組</u>として、これまでのインターネットによる通信教育の基盤と経験を踏まえて、以下に力点を置く博士前期/後期課程を目指す。</p> <p>①主として現職社会人(社会開発専門家や開発教育従事者)、もしくは一定の開発現場経験(インターン程度を含む)を有する学生を対象に、高度専門家の再教育・養成のみでなく、高度専門家を育成できる研究者・大学教員の養成プログラムを、博士前期・後期課程を一貫した教育課程として組み込む。</p> <p>②ITの活用により、海外在住・遠隔地在住の日本人専門家、また後期課程にあつては海外の(日本語能力に乏しい)外国人学生にも門戸を開き、かつ国内外での対面指導による論文作成支援の機会を増やす。</p> <p>③インターンシップの場を増強するとともに、現在の国内および海外5拠点でのスクーリング指導に加え、学生個人のフィールド調査に対する指導体制を整える。かくして「実践に学ぶ」研究能力を養う場を設ける。</p> <p><u>意欲的/独創的な教育プログラムへの発展的展開のために</u>「社会開発研究者養成国際機構(仮称)」「国際コンソーシアム」を設置し、具体的に以下を計画する。①COEの研究成果を継承する教材作成・教科書編纂作業、②海外連携ネットワーク拠点5校を中心に優秀な外国人学生を本専攻後期課程学生兼RAとして採用、③これら海外拠点校における在外教授やRAを中心に日本人学生のための短期フィールド指導体制を確立、④海外拠点校との学生/RAの短中期交換、⑤拠点校間の恒常的情報交換システムの確立、⑥学生を含めた国際研究集会の開催、⑦国内外にインターンシップやフィールドワークの新たな場を確保(学生の自主開拓も支援)、⑧海外も含めた巡回指導制度を設置、⑨通学型の講義/演習科目を選択的に導入、⑩研究方法論やフィールド調査法の教育を強化。</p>			

6. 履修プロセスの概念図

※研究者養成の履修プロセスを中心に図示

入学者層の社会開発領域における現場経験

長い

短い

例: 援助機関専門家
NPO/NGO 専門職員

例: 青年海外協力隊員
インターンシップを経た新卒学生

【実施フィールド】

【インターネットを活用した通信教育】

【実施フィールド】

拠点大学, 社会開発コンソーシアム参加機関・団体等のネットワーク

□ 特定地域開発研究

学生各自がフィールドを設定して自主的に行う開発現場での調査・研究活動に対して、研究課題との関連性や方法の適合性をチェックして評価し単位を認定。なお、学生の実証研究の展開を促進するため、本学においても多様なフィールドを用意する。

巡回による対面指導

研究指導 (および論文指導)

履修指導

- 開発基礎論の教育・指導
- 研究方法に関する基礎教育
- フィールド調査法に関する基礎教育

- 選択教育科目群の教育・指導
- 特別教育科目群の教育・指導

研究計画書の確定に向け指導

研究指導 (および論文指導)

巡回による対面指導

拠点大学, 社会開発コンソーシアム参加機関・団体等のネットワーク

□ 地域開発研究 (スクーリング)

本学の設定した複数の開発現場での講義・フィールドワークにおいて教育・指導

国内外の企業, 国際機関, 海外の開発関係研究機関等

□ インターンシップ

現場実務を学びながら研究上の問題意識をより明確にするための支援

【博士前期課程】

修士論文・学位審査

修士学位授与

専門職業人として
キャリアアップ

【博士後期課程】

拠点大学, 社会開発コンソーシアム参加機関・団体等のネットワーク

□ 特定地域開発研究

学生各自がフィールドを設定して自主的に行う開発現場での調査・研究活動に対して、研究課題との関連性や方法の適合性をチェックして評価し単位を認定。なお、学生の実証研究の展開を促進するため、本学においても多様なフィールドを用意する。

巡回による対面指導

研究指導・論文指導

研究計画策定指導

研究指導計画策定(教員)

研究計画審査

調査計画指導

論文計画指導

論文計画審査

論文執筆資格審査

博士論文本審査

博士後期課程入学

例: 国際公務員、
民間シンクタンク
研究者、
大学若手教員

博士学位授与

高度専門職業人
(管理者ポジションへの
キャリアアップ)

社会開発領域の研究者としてのキャリア

(大学・大学院の教員、国際機関・援助機関・企業の研究職への採用)

機 関 名	日本福祉大学	整理番号	a032
<p data-bbox="165 199 588 230">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 295 1430 470">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 488 491 519">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 535 1430 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 629 1225 660">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 678 1430 853">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が、優れており、期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に十分適合しており、その実現性も高く、一定の成果と今後の展開も十分期待できると判断され、採択となりました。</p> <p data-bbox="189 871 1206 902">なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 967 635 999">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="172 1014 1430 1238" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="172 1014 1430 1144">・ 社会人を対象とした通信制大学院教育の拡充は、時代の要請であり、世界各地にいる大学院生を通信型教育によって結び、複数指導体制、複数回のスクーリングにより教育を行う点は斬新で魅力的な試みとして評価できる。 <li data-bbox="172 1160 1430 1238">・ フェース・トゥー・フェースの教育でないため、指導を受ける側にこの体制を十分に理解させ浸透させておくことや現地語習得のプログラムの検討などの面で、更なる工夫が必要である。 			